



ナス栽培の ポイントについて

【指導員】 園芸課 柿崎 慎悦

今回は5月末から6月上旬に定植された夏秋野菜の代表格「ナス」について栽培の要点をお知らせします。

【定植後の管理】

側枝が4〜5cmになった頃、3本仕立てか4本仕立てにします。3本仕立ては、種子と一番果の上下（または下2本）側枝2本を残し、それ以外のわき芽をつけ根から摘みとります。3本〜4本仕立て以降は放任とします。枝が伸び、葉が繁ってきた時に果実にも十分光が当たるようにビニール紐などで誘引しましょう。古い葉は摘葉し、混みすぎた枝は間引きします。追肥は、収穫開始頃に行い、10日〜14日間隔で行います。1回の追肥量は、10kg当たりチッソ成分で2kg程度とします。高温乾燥時は、土壌が乾き過ぎないように早朝か夕方のかん水を行います。秋遅くまでの収穫を狙い、更新剪定（切戻し）も効果的です。なお、更新剪定の時期は、7月下旬から8月初め頃までに行いましょう。

【主な病害虫と対策】

◆青枯病

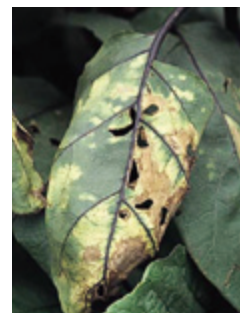
・**症状** 日中に萎れ、朝夕や曇雨天の日に回復することを繰り返します。次第に萎れが激しくなり、やがては萎れたまま枯死します。

・**対策** 連作を避け、発病圃場には最低5年間作付しないようにします。抵抗性台木による接ぎ木苗を利用することにより、被害を軽減することができます。

◆半身萎凋病

・**症状** 葉や株の片側半分だけに症状が現れる病気で、株元の近くの葉の葉脈と葉脈の間が黄色になり、徐々に茶色に変化します。日中、葉のふちが上方に軽く巻き上がる症状が初期症状です。放っておくと株全体に菌が広がり、枯死します。

・**対策** 青枯れ病に準じます。尚、薬剤による対策として、ベンレート水和剤による予防



▲半身萎凋病に侵されたナスの葉

◆アブラムシ類

・**症状** アブラムシの体長は1〜4mm程度で、おもに茎頂部付近の葉に寄生します。大量発生すると株の養分が吸われ成長が止まり、やがて枯死する場合があります。高温・乾燥時に発生が多くなります。

・**対策** アブラムシを確認したらアブラムシに登録のある薬剤（モスピラン顆粒水溶剤など）で防除します。



▲ワタアブラムシ。他のウイルスを媒介する間接被害も

◆ハダニ類

・**症状** はじめは葉に針で突いたような白色斑点が見ら



▲ハダニ。葉裏に寄生する

れ、徐々に葉全体に広がり、葉が白っぽく見えるようになります。被害が進むと葉色が黄色から褐色になり、葉裏が蜘蛛の巣状になります。乾いた土をかけると葉裏に土が付着します。アブラムシと同様に高温・乾燥時に発生が多くなります。

・**対策** ダニを確認したらダニに登録のある薬剤（スターマイトフロアブルなど）で防除します。

今回紹介した薬剤は一例です。使用の際はラベルに記載されている使用上の注意をよく読み、用法を守って正しく使いたしましょう。ご相談は最寄りの営農センターへお問合わせください。